つばさ TSUBASA

令和２年度 生涯学習課だより

第338号(６月)

長期にわたる感染予防で気をつけたい心がけ

新型コロナウイルス感染対策が長引きそうです。そうなると、どうしても心に余裕がなくなりがちでストレスが溜まってきます。普段とは違い、ちょっとしたことでいざこざが生じたり、相手を傷つけてしまったりすることがあります。以下はよく世間で見聞きする事柄の一部です。

【ドラッグストアなどのお店で…】

お店で見かける光景ですが、

●お店の人に聞く前に、まずお店の前にマスクや消毒剤の在庫・入荷についての貼り紙を確認しましょう。わざわざお店の人に聞かなくても、貼り紙を見たらわかりますね。

●在庫がないのに「いつ売り切れたの？」「なんでないの？」「いつ入るの？」とお店の人に詰め寄るのはやめましょう。いくらたずねても品物は手に入りません。

まだまだマスクや消毒剤が品薄なので、欲しいのは分かりますがお店の人はそれだけを業務にしているわけではありませんし、入荷しづらいのはお店のせいではありません。

【病院や施設の人に…】

病院や施設で働く人たちは、最もウイルスの感染に近いところで働いている人たちです。彼らは一般者より感染の確率が高い状況で、感染しないようにしながらも不安の中で働いています。

●「(コロナウイルスを)うつさないでよ」と言うのは、言った方は軽い気持ちでも言われた方は不快に思ってしまうことが多いようです。気をつけましょう。

●感染していないのに職員およびその家族と距離を置かない。そうされた方は傷つくでしょう。

【感染した人に対して…】

コロナウイルスは見えない存在です。誰しももらいたくてもらうわけではありません。しかし、不幸にして感染してしまうことは誰にでもあり得ます。配慮に欠ける行動をとって感染したというなら、その点を責められても仕方はないですが、

●感染者の自宅に投石や落書きなど嫌がらせをしない。

●感染者の情報を調べ上げて口外しない。(デマ、誤情報を含む)それをネットなどに拡散しない。これらの行動は、正義心からの行いでしょうか？行き過ぎは憂さ晴らしのようにしか見えません。

いかがでしょう。これらのことを自分がされる側として見ると「されて当たり前のこと」でしょうか？それとも「されたくないこと」でしょうか？

大人のしていることは子どもがマネをしてしまいます。そういうことをしてはいけないんだよ、と注意できるようにしましょう。